



Veritas In Silico

Bringing new hope with mRNA-targeted drugs

2025年12月期 決算説明資料

株式会社 Veritas In Silico
証券コード: 130A

2026年2月12日



免責事項

本資料は、株式会社 Veritas In Silico(以下「当社」といいます。)の会社情報の説明のみを目的として当社が作成したものであり、日本国、米国その他の一切の法域における有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。日本国、米国その他の法域において、適用法令に基づく登録若しくは届出又はこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集又は販売を行うことはできません。

本資料の作成にあたり、当社は当社がその作成時点において入手可能な情報の真実性、正確性及び完全性に依拠し、かつ前提としており、将来情報、外部データ等については、その真実性、正確性及び完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

将来の事業内容や業績等に関する本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、「目指す」、「予測する」、「想定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「企図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」又は将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他の類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、本資料作成時点において入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいて作成しており、これらの記述の中には、様々なリスクや不確定要素が内在します。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の将来における事業内容や業績等が、将来に関する記述に明示又は默示された予想とは大幅に異なることとなる可能性があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。

2025年12月期 ハイライト

プラットフォーム事業

- 各社との共同創薬研究が進捗し、5月に塩野義製薬とのプロジェクトにてマイルストーン達成
- AI創薬プラットフォームibVIS®の根幹となる技術について7月に米国で特許が有効となり、日本・欧州・米国的主要地域で知的財産権を確保

パイプライン事業

- パイプライン1(急性腎不全予防薬)のASOによる疾患治療プロジェクトが進捗し12月に特許出願し、KPI達成
- 6月に三菱ガス化学と核酸医薬品の共同研究契約を締結、12月にはスイスSpiroChem AGとmRNA標的化合物の共同探索研究を実施することに合意

2025年12月期の事業収益は91百万円、事業費用は487百万円、当期純損失は425百万円

- 業績は概ね見通し(10/14付開示)通りに推移するも、特別損失として減損損失31百万円が発生
- 2025年度はパイプライン1の創出と新技術開発によって研究開発投資が先行した

2026年12月期は 事業収益113百万円、経常損失564百万円、当期純損失567百万円を見込む

- 新たな自社パイプライン創出のための研究開発投資、研究所の移転及び設備増強に伴う設備投資などの先行投資的出費の発生を予想

業界の潮流をとらえた当社の取り組み

製薬業界では大手製薬会社が医薬品候補物質の導入を重視し自社創薬を控える傾向が加速している。

その潮流に慎重であった日欧の製薬会社も急速に追従しつつあり、大手製薬会社とのプラットフォーム契約機会は世界的に減少傾向にある。

プラットフォーム事業：潮流を理解しつつチャンスを広げる

01

- 既存の共同創薬研究を進捗させて、mRNA標的低分子創薬の成功事例を作る
 - 技術的なブレイクスルーを示して、業界の潮流を変化させる
- 創薬の意欲が旺盛な国内外バイオテクとの契約を締結し、将来価値の高くなるプロジェクトを推進する
- 大手製薬会社との契約に向けて引き続き取り組み、早期収益を得られるプロジェクトの実現を目指す

自社パイプラインの拡充：製薬会社が求める医薬品候補物質創出する

02

- パイプライン1については、DDSによる臨床試験のコストと期間を抜本的に削減し、将来価値の向上と早期マネタイズを意識する
- パイプライン2については、2026年度に創出する

03

多角化を通じた事業の安定を図る

- 当社AI創薬プラットフォームaibVISの応用性を活かし、農薬事業について参入する
- DDS自体のライセンスアウトによる収益化も視野に入れる

Contents

- 1 会社概要
- 2 事業ハイライト
- 3 財務ハイライト
- 4 2026年12月期 業績見通し



1 会社概要

Corporate Overview

会社概要

少数精銳の専門家たちによる AI創薬のバイオテク企業

会社名 株式会社 Veritas In Silico (VIS)

設立 2016年11月17日

本社 東京都品川区西五反田一丁目11番1号

事業所 新川崎研究所:神奈川県川崎市
新潟研究所:新潟県新潟市

代表者 代表取締役社長 中村 慎吾

従業員数 19名 (2025年12月末現在)

事業内容 独自のAI創薬プラットフォーム **aibVIS**により、
製薬会社をパートナーとして、mRNA標的低分子医薬品
の創出に取り組む。
2025年より、核酸医薬品を中心に自社パイプライン創出
にも取り組む。



パートナーとの創薬研究と自社パイプライン事業のバランスのとれたビジネス展開

mRNA標的低分子医薬品の共同創薬研究と合わせて、パイプライン創出でも各社と提携。
加えて2025年度以降、毎年一本の自社パイプライン創出を推進。



aibVISの応用力を活かし事業ポートフォリオを多角化

当社独自のAI創薬プラットフォームaibVISの高い汎用性と拡張性を活かし、複数の事業機会を戦略的に展開。

プラットフォーム事業

mRNA標的低分子医薬品

従来のタンパク質標的の低分子創薬では有効な治療薬が見つからない疾患や、高価な治療法しかない治療ニーズへの解決策となる。

自社パイプライン創出

核酸医薬品

aibVISによって短期間に核酸医薬品の創出が可能となる。希少疾患に対する治療の可能性を提供していく。

プラットフォーム事業

mRNA標的低分子農薬

aibVISは、ヒト医療用医薬品に限らず農薬の創出にも応用可能。自然環境や人体への影響が少ない農薬を創出する。

従来のAI創薬プラットフォーム
を特化型AIによって強化した

aibVIS

で事業の多角化を実現

ライセンスアウト

ドラッグデリバリーシステム

効果的な投薬を可能にすることにより、核酸医薬品の抱える課題を抜本的に解決する。

安定性と収益性を兼ね備えた収益体制を構築

研究開始から製品が市場に出るまで約10年¹



共同創薬研究によって、創薬初期から安定的な収益を獲得する収益構造



自社パイプラインを先行的に構築し、ライセンスアウトすることで大型の一時金とマイルストーンを得る収益構造



↑ 収益発生ポイント

¹ 上市までの期間については、実際の研究開発状況により大きく異なる可能性がある。

² 現時点(2025年12月末現在)、製薬会社による開発・販売ステップにまで進んだ実績はない。

³ aibVISを使用した当社と製薬会社の協業は、創薬研究期間中に限られる。

⁴ 開発・製造・販売ライセンスに関する取り決めについては、基本的に共同創薬研究契約の締結時に盛り込まれる。



2 事業ハイライト

Business Highlights

2025年12月期の事業トピック

プラットフォーム事業

創薬プラットフォームの中核技術 2025年7月米国で特許査定

創薬プラットフォームibVIS®の核となる、標的mRNAの部分構造と存在確率の解析、創薬標的に適した部分構造の同定、およびそれを用いたスクリーニングに関する特許

塩野義製薬との共同創薬研究 にてマイルストーン達成

mRNA標的低分子創薬の共同創薬研究にて、特異的な作用を示す高活性の化合物取得を、塩野義製薬の高い基準にて実現

KPI項目

SpiroChemとの 共同探索研究に関する合意

SpiroChemが誇る世界的水準の化合物に対する深い知見と、VISのaibVISを融合させ、将来の創薬に役立つ設計基準の確立を目指す

パイプライン事業

KPI項目

自社パイプライン1の創出 (物質特許の出願)

当社で最初の自社パイプライン1として、対象疾患を心臓血管手術後に惹起される虚血性の急性腎不全とした核酸医薬のプロジェクトが進行中

KPI項目

三菱ガス化学との 共同研究契約を締結

核酸医薬の創出及び製造方法確立を目的とする共同研究の実施について合意

核酸医薬品に使用する ドラックデリバリーシステムの特許取得

核酸医薬品の抱える課題を抜本的に解決するため、ドラックデリバリーシステム(DDS)の特許を取得。早期の実用化を目指す

プラットフォーム事業・パイプライン事業における将来収益につながる大きな節目

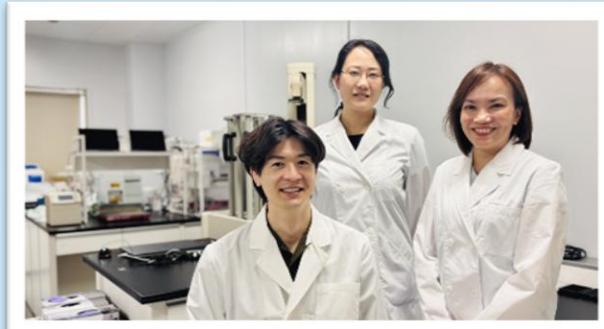
プラットフォーム事業

塩野義製薬とのmRNA標的低分子創薬の共同研究にてマイルストーン達成(★)

創薬研究進行段階

ターゲット探索

タンパク質標的では困難だった特異的な作用を示す高活性の化合物取得を、塩野義製薬の高い基準で実現



本件共同創薬研究の中心メンバー

スクリーニング

ヒット to リード

リード化合物創出

リード化合物最適化



詳細はプレスリリースでもご紹介しております。

[2025.05.23 mRNAを標的とする低分子医薬品の創出に向けた塩野義製薬との共同創薬研究の進捗に伴うマイルストーン達成のお知らせ](#)

パイプライン事業

三菱ガス化学との核酸医薬品の創出・製造方法確立をめざした共同研究を開始。QbDの取り組みへの第一歩

目的	RNAを標的とした核酸医薬(ASO)の創出と製造方法の確立
共同研究期間	3年間
技術基盤	Veritas In Silicoの創薬プラットフォーム「aibVIS」を活用
役割	VIS: ASOの創出(設計、取得、検証) 三菱ガス化学: 製造方法の確立
特徴	QbD(Quality by Design)を創薬研究の初期段階から導入し、迅速な臨床試験への移行を目指す

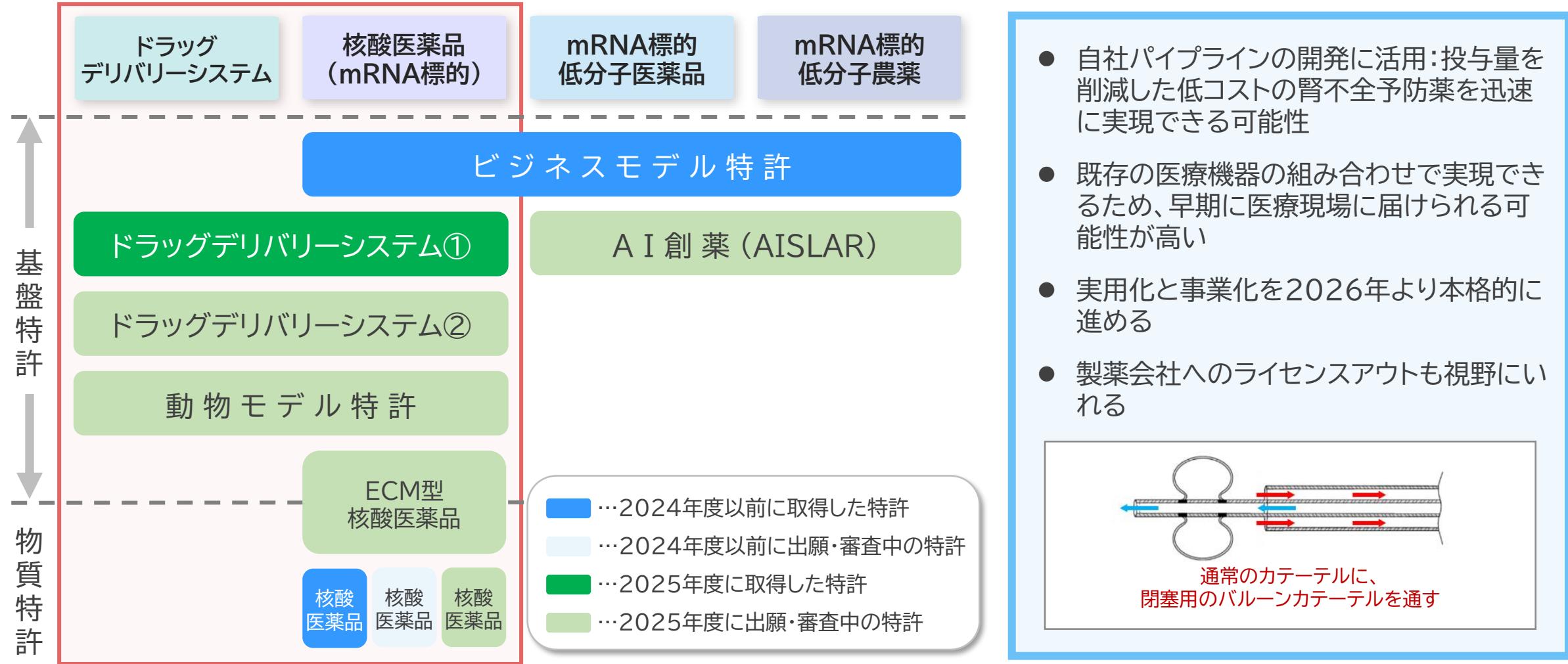
詳細はプレスリリースでもご紹介しております。

[2025.07.03 三菱ガス化学との核酸医薬の創出及び製造方法確立を目的とする共同研究契約締結のお知らせ](#)

ドラッグデリバリーシステム事業の位置づけ

Perfusioによる新たな治療法を実現し、自社パイプライン価値および収益機会拡大を目指す。

究極的には医薬品を対象臓器のみに届け、全身への暴露を避けることで臨床試験の抜本的な短縮と低コスト化を目指す。



Perfusio（臓器灌流システム）の利用による当社医薬品開発が本命

核酸医薬品のような高価で高活性な医薬品については、対象臓器に正しく届くためのドラッグデリバリーシステムが必要である。

当社においてはPerfusio を社内で利用していくだけでなく、ライセンスアウトによる収益化も目指していく。

体制構築

1

- 新規カテーテルPerfusio をパートナー医療機器メーカーと、全身どこに対しても利用できるような汎用の医療機器として、製造販売体制を整える

一般化

2

- Perfusio を使ったドラッグデリバリーシステム(DDS)を広める
 - VISと共同研究を実施する太田先生による成果の外部発表を積極的に進める
 - 「Perfusio を用いて、(全身投与で認可されている)既存の医薬品を使う」お医者さんの手技・手術の場合は臨床試験がいらないことから、臨床現場で自由に使用可能とする
→ 臨床現場では、臓器灌流の特許に触れるものの許容し、当社はライセンス料を取らない方針とする

当社での利用

3

- Perfusio をはじめから利用する治療用医薬品を創出する
 - 自社パイプラインについて、「Perfusio を用いた新規の医薬品を使った新規臓器灌流治療」の実現を目指す
→ マイクロドーズ毒性試験だけで、臨床試験を不要とする医薬品承認の道筋を目指す

さらなる収益化

4

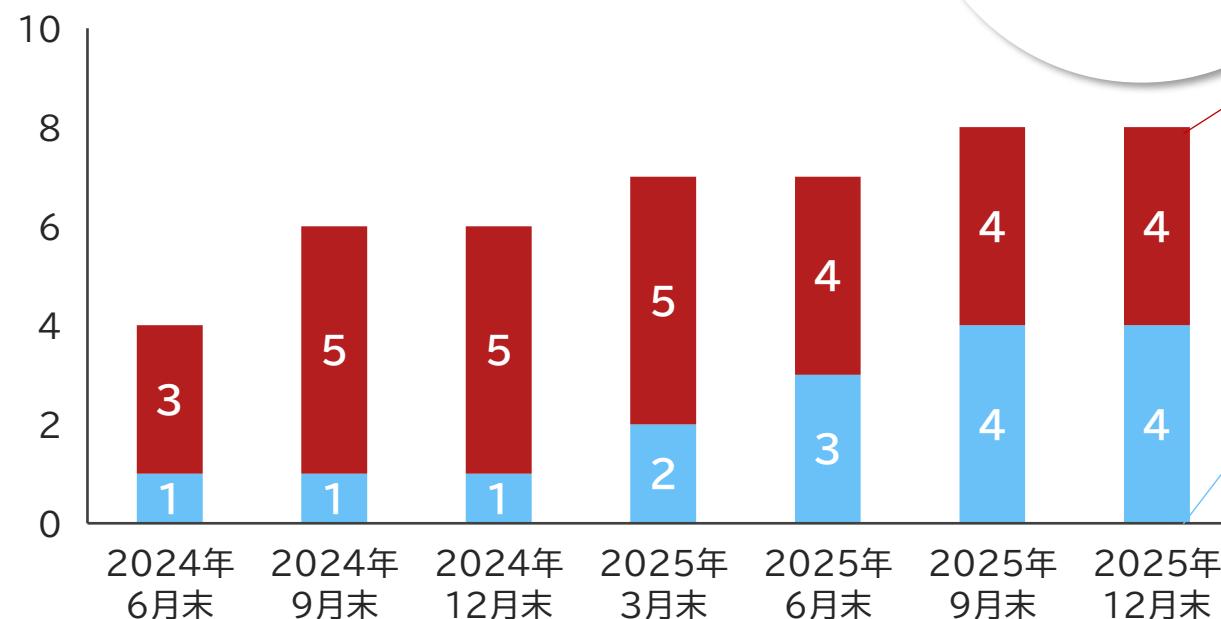
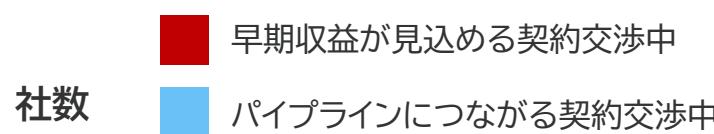
- Perfusio 利用の医薬品開発を希望する製薬会社から臨床試験時等にライセンスアウトする

CDA数にもとづく事業開発

秘密保持契約数を確保し、早期収益化が見込める契約締結を目指す

2026年以降も、適切な秘密保持契約(CDA)数を確保し、1件の早期収益が見込める契約を含む年2件の締結を目指す。
8件のうち3件は欧州企業。引き続き海外展開を進める。

CDA下交渉中社数の推移



契約交渉中

CDA
締結下
合計 8 社

CDA下交渉および契約締結社数の累積

12社／43%
(CDA下契約交渉済28社中)

4社
4社

交渉済
28社

5社
7社

CDA締結下
契約交渉

契約締結

2025年度のKPI達成実績

新規契約は年間4件の目標に対し、3件達成。自社パイプライン創出は、2025年12月に特許出願を行い、目標達成。



新規契約
(年度内に4件)



自社パイプライン創出
(年度内に1本)



事業収益額



(注) 2025年10月14日付で開示したとおり、新規契約については、2024年度より期ずれとなっていた1件の交渉にて
契約条件等の妥結点を見いだせず、2025年度内の達成が困難となり、年間の新規契約は3件の達成となりました。2025年12月末現在



3 財務ハイライト

Financial Highlights

損益計算書

2025年12月期 業績概要

各パートナーとの共同創薬研究が進捗し、事業収益はマイルストーン収入や研究支援金など91百万円を計上。

(要約)損益計算書 (単位:百万円)

	2024/12期 実績	2025/12期 実績	増減額	増減率
事業収益	194	91	△103	53.2%
事業費用	407	487	80	19.7%
営業利益	△212	△396	△183	—
営業外損益	△20	6	△17	—
経常利益	△233	△390	△157	—
当期純利益	△236	△425	△189	—

2025年度通期
主な内訳 (単位:百万円)

うち マイルストーン収入
研究支援金等 10
81

うち 研究開発費
販売費及び一般管理費 215
272

業績推移

四半期業績の推移(FY2023Q3～FY2025Q4)

(要約)四半期会計期間損益計算書 (単位:百万円)

QoQ	FY2023 Q3	FY2023 Q4	FY2024 Q1	FY2024 Q2	FY2024 Q3	FY2024 Q4	FY2025 Q1	FY2025 Q2	FY2025 Q3	FY2025 Q4
事業収益	29	81	32	83	49	29	24	19	22	25
事業費用	80	83	97	85	104	120	105	124	124	134
営業利益	△51	△2	△65	△1	△54	△91	△81	△105	△101	△108
営業外損益	△1	0	△22	0	0	1	1	1	1	1
経常利益	△53	△1	△87	△1	△54	△90	△79	△103	△100	△107
当期純利益	△53	△2	△87	△2	△55	△90	△79	△104	△101	△140

貸借対照表

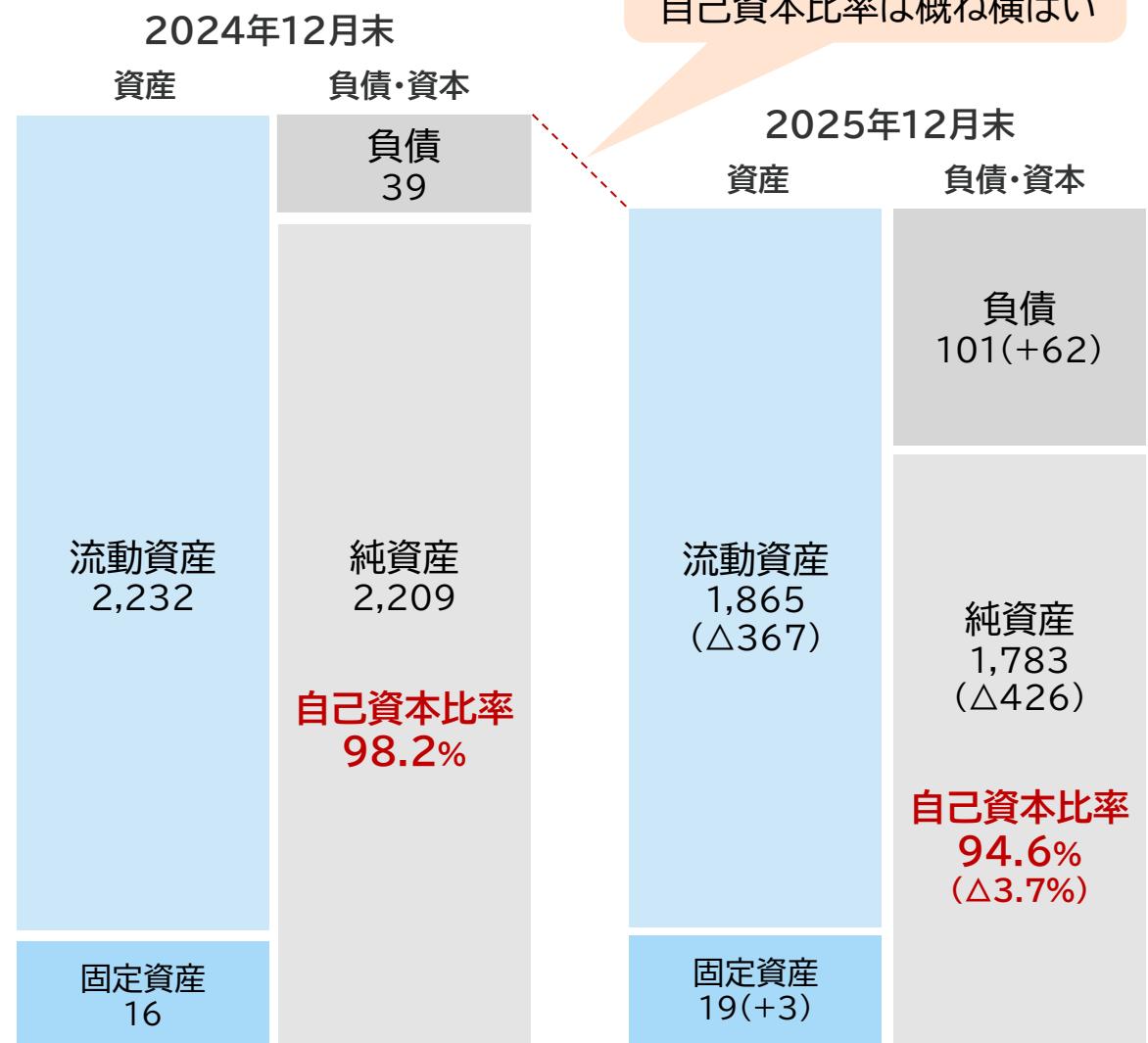
財務状況の推移

2025年第2四半期に、資本政策の柔軟性・機動性を確保するため、
資本金の額を77百万円から10百万円に減少(減資)させた。

貸借対照表の推移 (単位:百万円)

	2024年度 期末	2025年度 期末
現金及び預金	2,173	1,825
流動資産合計	2,232	1,865
有形固定資産	14	0
固定資産合計	16	19
資産合計	2,248	1,884
負債合計	39	101
資本金	77	10
純資産合計	2,209	1,783
負債・純資産合計	2,248	1,884

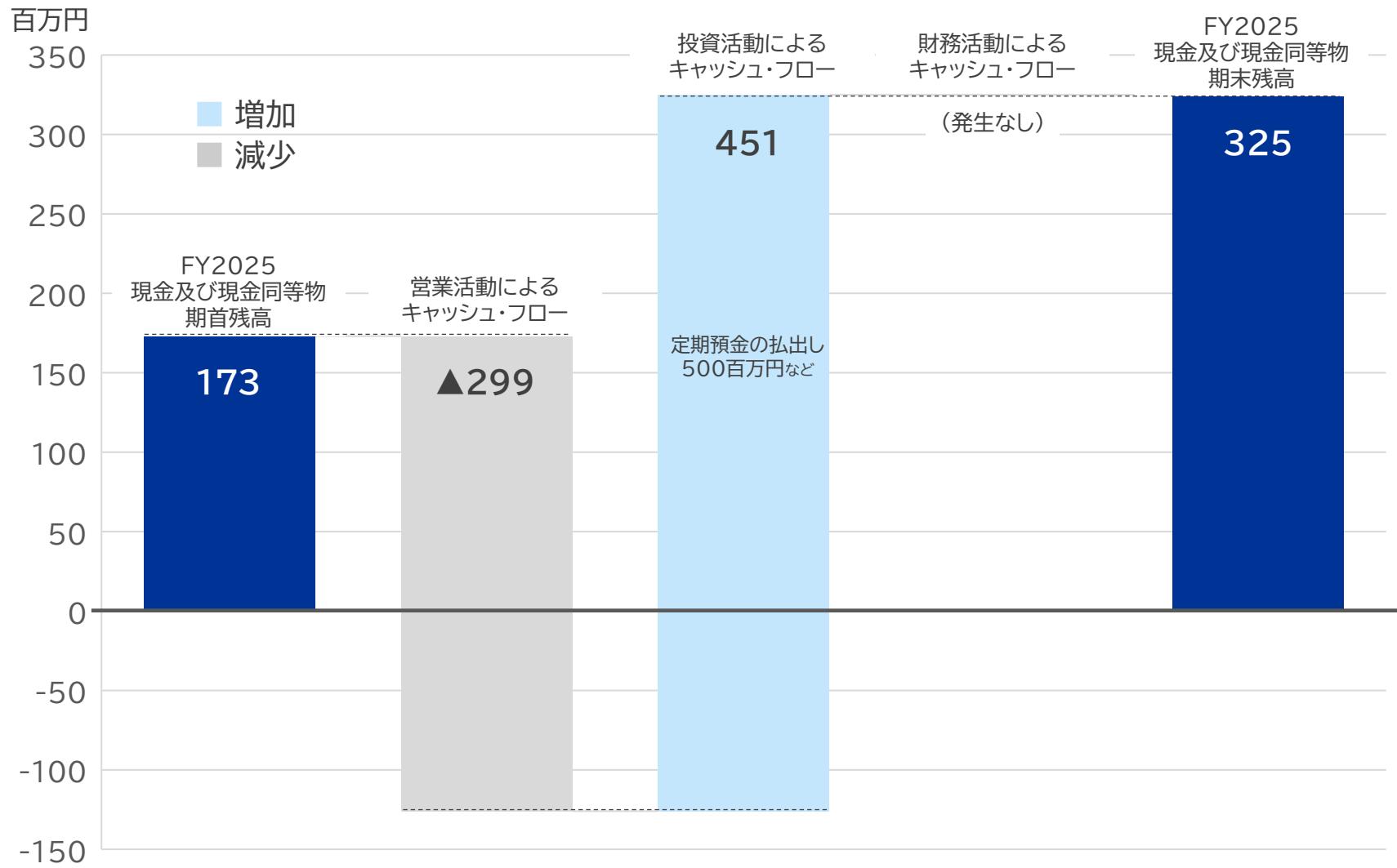
バランスシート推移 (単位:百万円)



総資産は 425百万円減少
自己資本比率は概ね横ばい

キャッシュ・フロー

2025年12月期 会計期間のキャッシュ・フロー





4 2026年12月期 業績見通し

FY2026 Forecast

損益計算書

2026年12月期 通期業績予想

新たな自社パイプライン創出のための研究開発投資、研究所の移転及び設備増強に伴う設備投資などの先行投資的出費の発生を予想。

(要約)損益計算書 (単位:百万円)

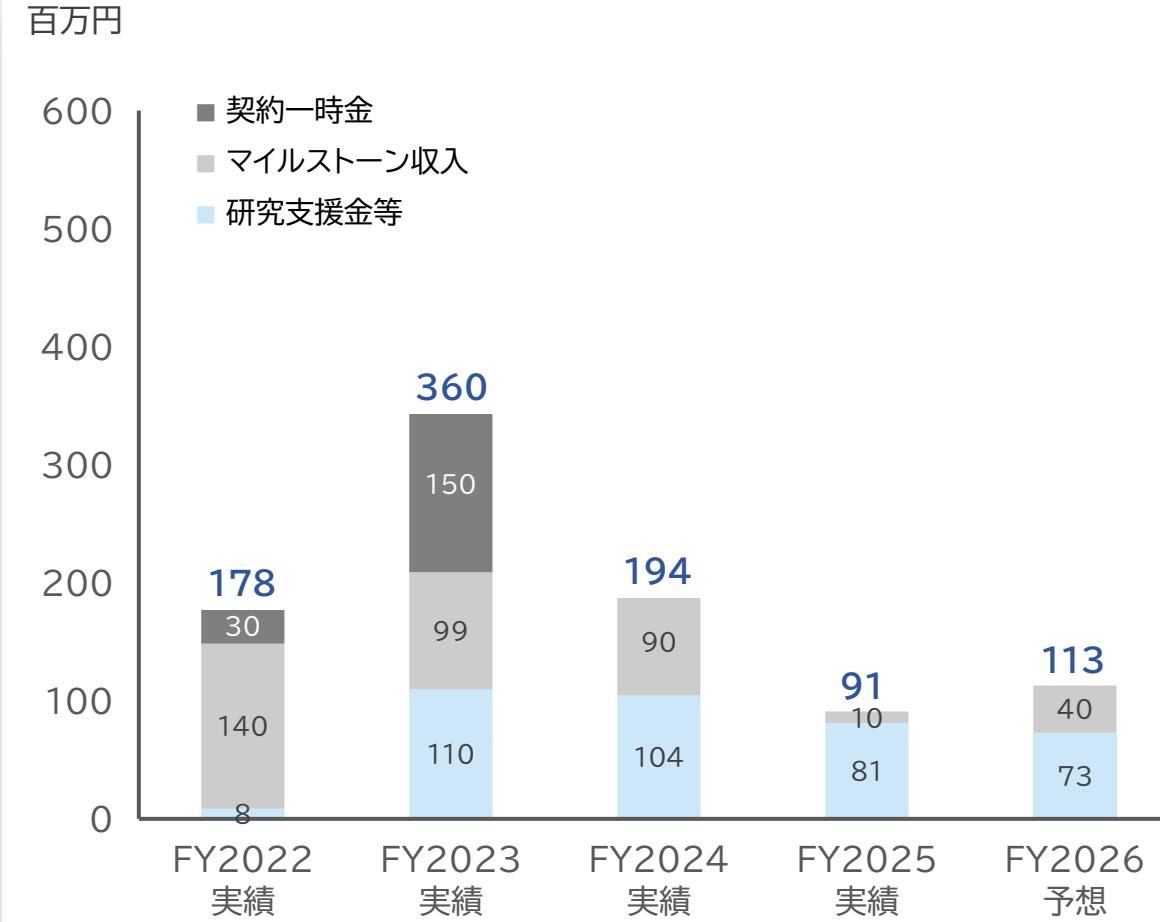
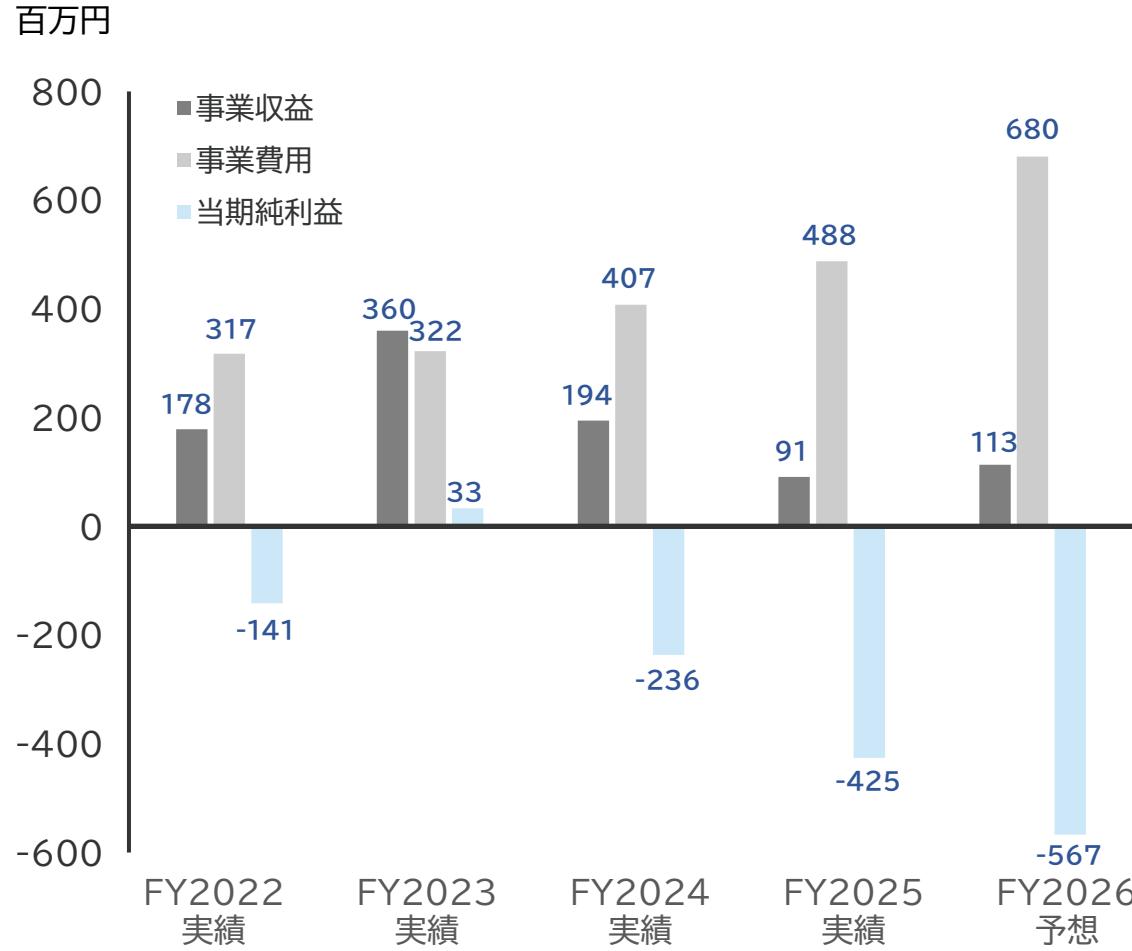
	2025/12期 実績	2026/12期 予想	増減額	増減率
事業収益	91	113	22	24.2%
事業費用	487	682	194	39.9%
営業利益	△396	△569	△172	—
営業外損益	6	4	△1	—
経常利益	△390	△564	△173	—
当期純利益	△425	△567	△141	—

2026年度通期予想 主な内訳 (単位:百万円)

うち
マイルストーン収入 40
研究支援金等 73
30増加
8減少

うち
研究開発費 380
販売費及び
一般管理費 301
165増加
29増加

2025年12月期 事業収益と収支の実績と業績予想



公募調達資金による成長投資の状況

スペシャリティファーマへの道のりを実現に向けた社内基盤整備のため、人的資本の拡充、研究開発の推進、設備拡充・更新、マーケティング等の成長投資をすすめる。



人的資本の拡充

スペシャリティファーマ
への変革を目指して

- 専門的人員の増強
- ガバナンス体制の整備
- ベースアップによる
処遇改善

投資済み0.9億円
投資予定3.4億円 / 4.3億円

*2025年12月時点 *2026年度以降投資予定

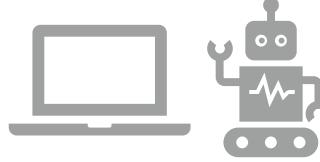


研究開発の推進

自社パイプラインの創出

- 自社パイプライン創出に
向けた研究
- 知財の拡充
- ドラッグデリバリー
システムの事業化

投資済み0.4億円
投資予定3.5億円 / 3.9億円



設備拡充・更新

自社研究を頑強にするため
の設備増強・計算能力拡大

- 研究所の拡大・移転
- 研究設備の拡充・更新
- 計算能力・AIの増強
- 研究プロセスのDX化

投資済み0.3億円
投資予定0.1億円 / 0.4億円



マーケティング

海外進出による創薬
パートナーシップ拡大へ

- 海外進出
- 事業開発に直結する
研究データの創出
- 国際学会での発表

投資済み0.1億円
投資予定0.5億円 / 0.6億円

スペシャリティファーマへの道のり: 2026年12月期の重点施策

スペシャリティファーマへの成長実現のため、2026年には以下の重要施策に取り組む。

**Measure 1
新規契約
2件締結**

新規契約2件締結をKPIとする
外部環境の変化に対応しつつ、欧州への展開や
農薬への応用も視野にいれた事業開発を進める

**Measure 4
DDS(ドラッグデ
リバリーシステム)
の事業化開始**

「Perfusio」の事業化準備を進める
医療機器メーカーとアライアンスを構築し、
事業化に向けた取り組みを進める

**Measure 2
パイプライン
2本目創出**

自社パイプライン2の創出に向けた研究
を進める
高い将来価値が期待できる医薬品候補物質の生
成と特許出願を目指す

**Measure 5
新川崎研究所
移転完了**

新川崎研究所を移転させる
研究内容の高度化に対応するとともに、研究員
の執務環境改善等を目的として、研究所を拡充。
そのため2026年3月に新たな場所に移転する

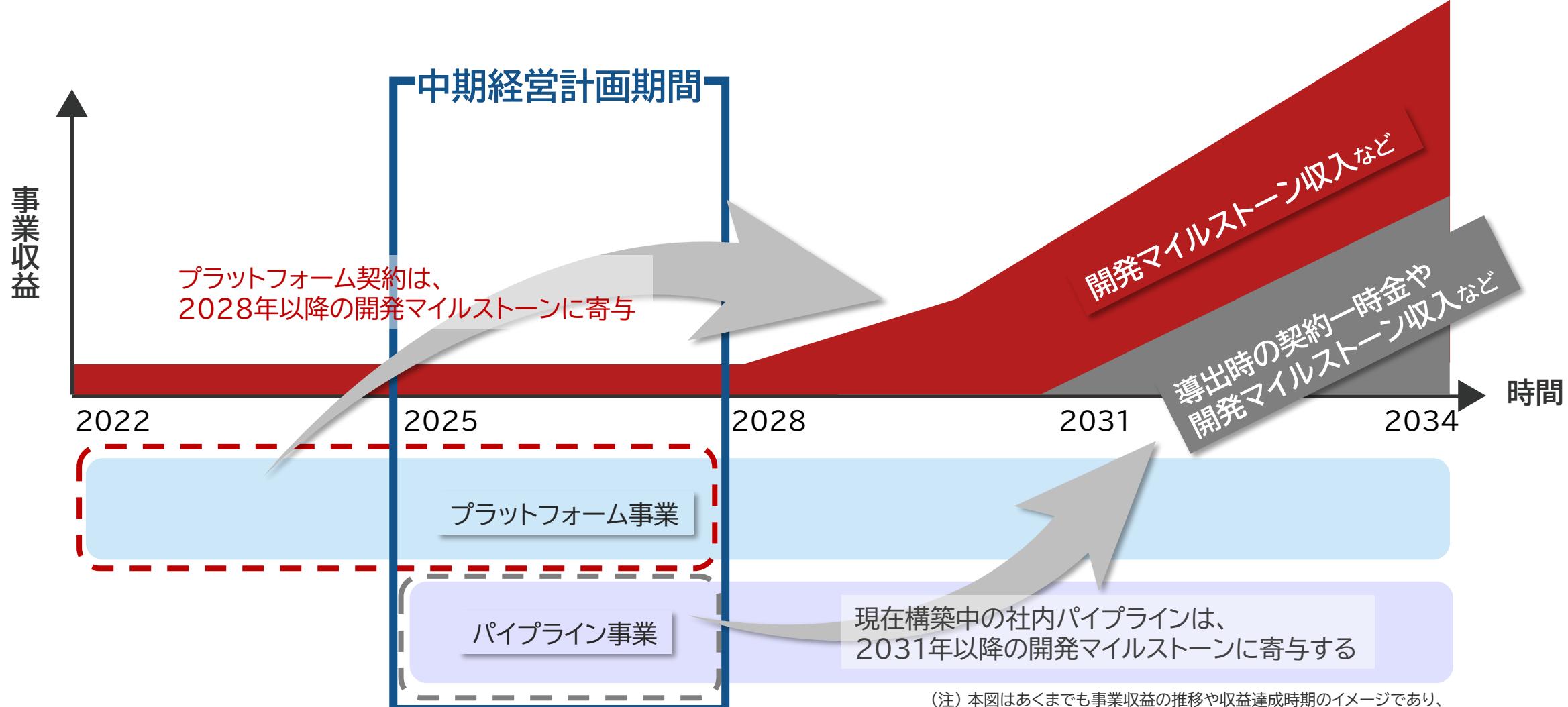
**Measure 3
パイプライン1
非臨床試験の
開始**

自社パイプライン1の非臨床試験
(動物実験)を進める
Perfusioを活用し非臨床試験・臨床試験の
コストを抜本的に削減することを目指す

技術研究・パイプライン創出への投資による将来価値の最大化

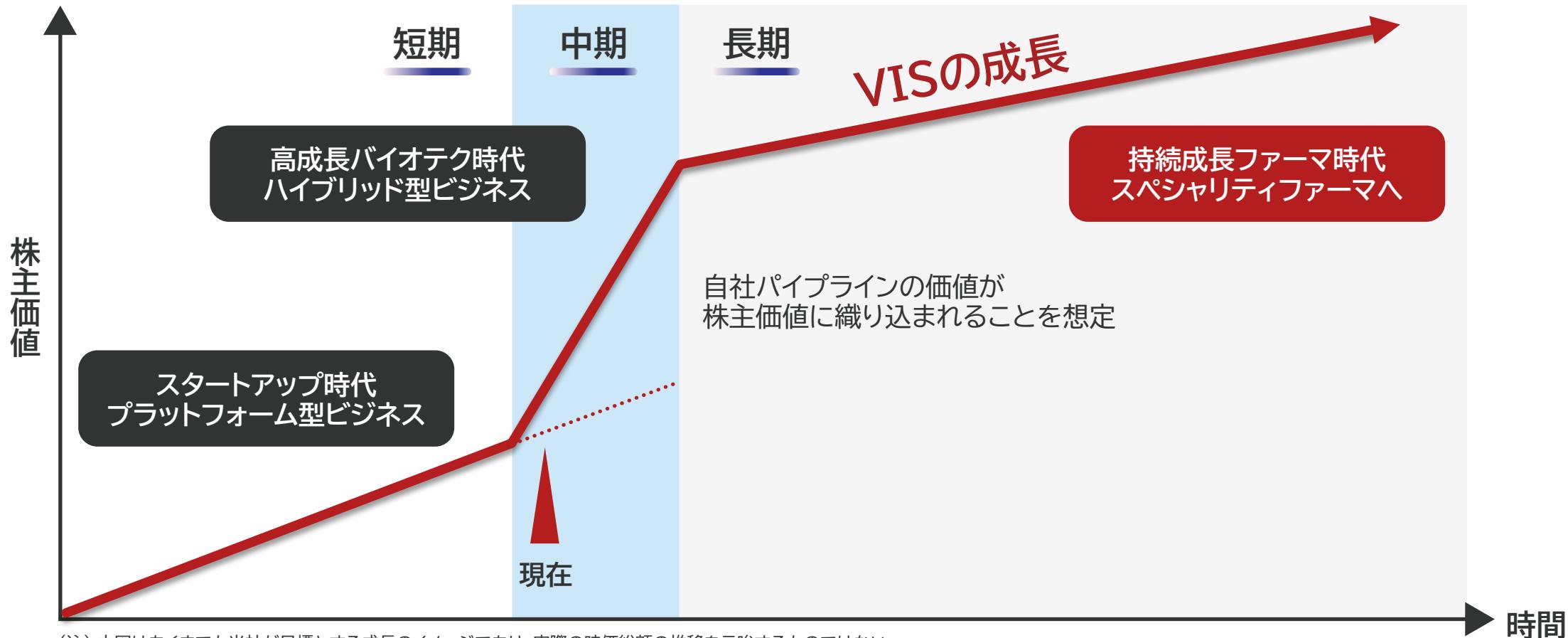
中期経営計画期間は、将来の成長のために社内パイプラインの構築に投資する時期。

以降の時期に、過去・現在の投資が、開発マイルストーン収入等の大きな収益に結び付くように設計している。



持続成長可能なスペシャリティファーマへ

高成長ハイブリッド型モデルを経て、持続成長可能で研究開発・販売機能を備えた製薬企業(スペシャリティファーマ)へ進化。





創薬のブレイクスルーを実現し、
スペシャリティファーマ
を目指す



理念

mRNA標的創薬で 希望に満ちたあたたかい社会の実現を

どんな疾患の患者さまも
最適な治療が
受けられるように



^{14}Si Veritas In Silico